

【 ななつ星との思いで 】

旅の始まりは、久しぶりに送られて来た長男からのメールでした。

「やってしも一た 写真を見て！」

えっ、まさか 趣味のロードバイクで事故では？ 頭の中は ぐるぐる巻きになったギプスの包帯姿を想像して不安でいっぱい。そして次のメールには
「列車を楽しんできて」

それと “CRULSE TRALN SEVEN STARS IN KYUSHU 旅のご案内の冊子” が写し
出されていました。 『やってしも一た』の意味がやっと分かりました。

応募から 5 年目で当選したとの事！ この突然の知らせに

夢が現実になった嬉しさと驚きで我が家は大騒動の一日に。

しかし、問題が二つ有りました。

それは愛犬チャコ 15 歳の体調が良くない事

もう一つは諸手を挙げて甘えて良いのか 戸惑っている事でした。

動物病院の先生には『大丈夫とは言えませんが入院の形で診ます』と

息子からは『折角のチャンスななつ星に乗って楽しんでくれる事が嬉しい』

胸のつかえがスーと無くなり 2018 年 7 月～旅の準備が始まりました。

出発までは 3 か月も先の事ですが 心は弾み気持ちはもう列車の中。

早速 旅先の下調べや行程表に何度も何度も目を通して 季節に合った衣服を

揃えるのにも多くの時間を費やしました。その間の夫婦の会話はいつもと違って超前向きで これまでの旅行の準備とは違い 特別なものがありました。ところが 旅を目前にして 台風が九州を直撃する？ という天気予報がテレビで流され……嫌な予感がしました。

残念ながら 出発2日前の10月2日台風の為に中止との連絡があり 頭の中は真っ白に しばらくは放心状態でした。

旅行のスーツケースは 既に宿泊先の「梅ひびき」に届いているのに！
しかし、その日の内にキャンセル待ちで申し込んでいた分で
12月に乗車出来るとの事。

何はともあれ 胸を撫で下ろし再び準備（秋から冬支度）に嬉しい悲鳴となりました。

2018年12月11日 やっと 「ななつ星豪華列車の旅」 出発の日が。

垂れ幕を潜ると 其処は金星。光り輝やいて見えるホールには同乗される
方々の 笑顔と語らいの姿が とても神々しく見え 『夢では？無いんだ !!』と
自問自答。そして、やっとツアーデスクの矢羽田様にお会いすることが出来
ました。 この半年間お電話で旅の内容説明や天候質問など懇切丁寧に
対応して下さり不安なく臨む事ができ本当にお世話になりました。

ウエルカムセレモニーが始まると 興奮は最高潮！ 身体が宙に浮いている様
11時21分盛大なお見送りの中 列車は博多駅からゆっくり出発。

ななつ星の列車の旅が始まりました。列車は予想を遥かに超え趣向を凝らした調度品の数々が『素晴らしい〜』この魅力に溢れたななつ星での4日間が益々楽しみに…やはり想像以上の事となりました！！

列車はゆっくり走るお陰で窓から見える景色を共に見て互いにあれやこれやと話に華が咲き穏やかな時間が過ごせました。

時に、ホームでは手作りの旗を！駅前では横断幕を掲げて！福祉施設の外では気温が低いのにとも関わらず車椅子に座り列車の通過を待ち手を振って！歓迎して頂いた方々には、只々感謝の気持ちでいっぱいになりました。

食事は「ブルームーン、木星」に移動して暖色の柔らかな照明の中手間が込められたお料理を頂きました。見た目でも楽しませて下さりお味も最高またソムリエの方がお勧めして下さったアルコールと一緒に味合わせて頂き至福の時間でした。毎回のお食事を写真に収め献立表と照らし合わせながら賞味させて頂き、どのお料理も大変美味しく大満足でした。時々、食べることに夢中になりすぎて撮るのを忘れる始末。

そして、一番の思い出は阿蘇神社での事。熊本地震による復興途中の姿に無事の修復を祈って居りますと冷たい風が次第に強くなり寒さが苦手な私達はバスに戻る事にクルーの原尻さんが同行して下さり3人は

『寒い寒い』と叫び子供の様に大笑いをしながら参道を走りました。

とっても楽しいひと時となりました。

夢のような 列車の旅も4日目最後のフェアウェルイベントとなりました。

「ブルームーン」に全員集合です。スクリーンに映し出されるスナップ写真をワンチームになって楽しみました。

もうすぐ 列車は博多駅に到着し 旅の終わりが！

車窓から眺めている街並みは薄暗くなり始め まるで私達の心の様

「ななつ星の列車に乗れて良かったね 楽しかったね みんなに感謝だね〜」

とポツリポツリ 十分な満足感と一抹の寂しさが……

豊かな自然を沢山眺められた事 歴史ある旅先で新しく知り得た事

そして 色々な場面で出逢えた新たな事等が大切な宝物となりました。

ななつ星の旅から早くも一年、今でも 写真を見ては家族で談笑してます。

最後になりますが、 スタッフ皆さま方の思いやりに溢れたおもてなしのお陰様で とても素晴らしい旅となりました。 誠にありがとうございます御座いました。

追伸です。

旅が終わり皆さまにお礼のご挨拶をしている中、4日間離れていた愛犬の状態が気になり新幹線の時間を調べると一本前に間に合う事を知り、慌ただしく帰宅してしまいました。

お騒がせして、本当に申し訳ありませんでした。